

【大学院教育学研究科】

① 教職大学院の使命や教職大学院がめざすもの

現在の学校を取り巻く課題は極めて多種多様で、一人の教員が全ての課題に対応することは困難な状況である。したがって、これからの時代の教員には、社会や環境の変化を的確につかみとり、選択・活用する能力や知識を有機的に結び付け、組織的に対応する力が求められている。教職大学院は、このような社会の要請に応え、高度の専門的な能力及び優れた資質を有する教員の養成のための教育を行うという使命を果たさなければならない。

そこで本研究科では、学校教育に関する深い学識と卓越した実践力・応用力を有し、各自が得意分野を持つとともに、その得意分野を持ち寄り、「チーム学校」として組織的に問題解決することができる資質・能力を培うことを基本理念としている。また、この理念に基づいて、確かな教育観と幅広い視野を持ち、教職としての高度の実践力・応用力を備えた、地域に根ざす学校づくりの有力な一員として、各自の得意分野を活かし合い、補い合い、連携して問題解決にあたることのできる新人教員及び指導的役割を果たし得る教員を養成することを目的としている。以上の理念及び目的については、教育学研究科規程において規定している。

② 教職大学院で養成しようとする人物（教員）像

本研究科で養成しようとする教員像は、ディプロマ・ポリシーに掲げている。ディプロマ・ポリシーの具体的な内容は、学部新卒既卒学生と現職教員等学生・現職管理職学生の2つに分けて「使命感・倫理観」、「学校・学級経営」、「子ども理解」、「授業力」という4つの観点から構成されている。学部新卒既卒学生には、「教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となり得る新人教員」、現職教員等学生・現職管理職学生には、「教職としての高度の実践力・応用力を備え、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員に必要な不可欠な確かな教育理論を備えたスクールリーダー」であることを求めている。

③ 教育活動等を実施する上での基本方針

本研究科では、上述したような学生の資質・能力を養うために、専門的な方法論と知識を体系的に学ぶことができるように教育課程を編成しているとともに、教育理論と実践の融合を図るための活動を取り入れることを重視している。また、学生自身が、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の修得状況を省察し、更なる改善を図る活動を積極的に取り入れることを目指して、教育実習と関連の深い科目にはルーブリック自己評価を導入し、定期的に自己の学修状況を点検・改善できるようにしている。カリキュラム・ポリシーは、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を備えた教員を養成するために、「教育課程の編成」、「教育内容・方法」、「学修成果の評価」という3つの観点に基づいてそれぞれの方針を明示している。

④ 達成すべき成果

本研究科が達成すべき成果は、教育理論と実践の融合を図るための活動とその省察を繰り返すことを通して、地域に根ざす学校づくりの有力な一員となり得る新人教員、地域や学校における指導的役割を果たし得る教員に必要な不可欠な確かな教育理論を備えたスクールリーダーを輩出することである。そして、修了生一人一人が、勤務校での教育活動を牽引し、その成果・効果を地域に波及させ、ひいては、宮崎県を始めとする地域の教育の発展・充実に貢献することを目指している。